

令和3年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立 岡本小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和3年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

令和3年5月27日(木)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語, 算数, 児童質問紙)

中学校 第3学年(国語, 数学, 生徒質問紙)

4 本校の参加状況

① 国語 47人

② 算数 47人

5 留意事項

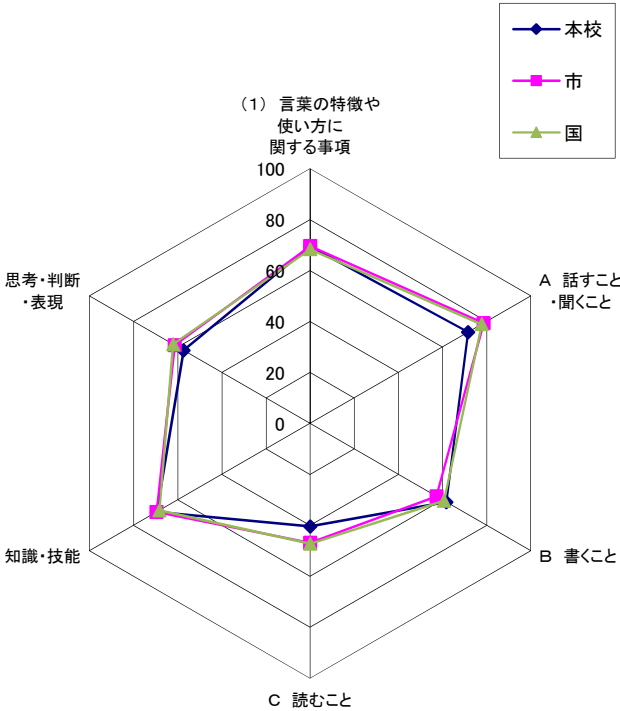
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、算数の2教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立岡本小学校第6学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国，市と本校の状況

【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	(1) 言葉の特徴や使い方にに関する事項	69.5	69.6	68.3
	(2) 情報の扱い方にに関する事項			
	(3) 我が国の言語文化に関する事項			
	A 話すこと・聞くこと	71.6	78.7	77.8
	B 書くこと	61.7	57.3	60.7
	C 読むこと	40.4	46.9	47.2
観点	知識・技能	69.5	69.6	68.3
	思考・判断・表現	57.4	61.4	62.1
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

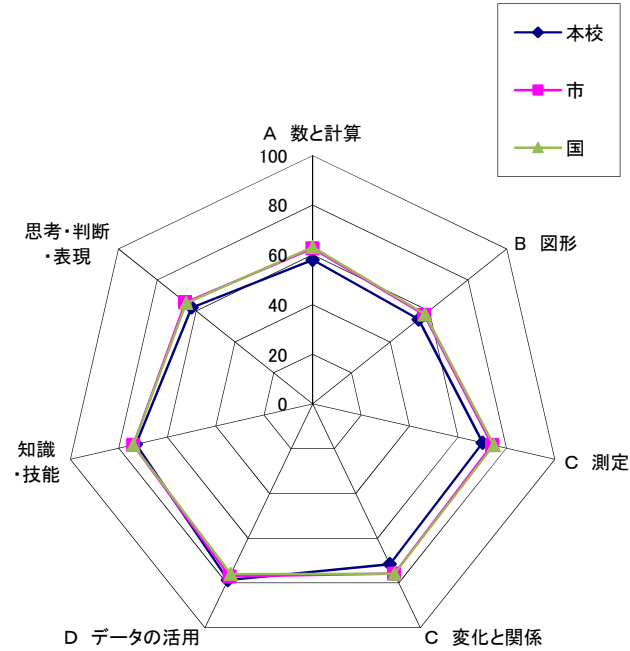
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
(1) 言語の特徴や使い方にに関する事項	平均正答率は、全国平均と同程度である。 ○主語述語が複数ある文において、主語と述語との関係をしっかりと捉えることができる。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・漢字の学習では、多様な使い方を調べることや漢字の持つ意味を考えながら正しく使ったり書いたりする習慣を身に付けさせていく。
A 話すこと・聞くこと	平均正答率は、全国平均よりやや低い。 ●問題で問われていることに対して、適切に資料を選ぶことができていない。	・相手の話を聞く際は、相手の話の目的や意図を捉えながら内容を注意深く聞き取れることを国語だけでなく他教科の学習においても指導していく。 ・話し手になる場合には、目的や意図に合わせて資料を用意したり、作成したりしたものを基に、わかりやすく伝える機会を増やしていく。
B 書くこと	平均正答率は、全国平均よりやや高い。 ○複数の条件を理解し、回答することができる。	・意図的に条件を付けて書く機会を増やし、その目的や意図に応じて、自分の考えの理由を明確にし、まとめて書くことを継続して行っていく。
C 読むこと	平均正答率は、全国平均よりやや低い。 ●2つの資料を関連させて解答することができていない。	・本文や問題文で内容の要点を押さえ、本文の中から問われている事柄を見つけ出して整理していくことができるよう、キーワードに印をつけるなどの指導を行い、読み取る力の定着を図る。 ・図表も一つの資料であることを国語の授業においても意識付けていく。それによって、文章と図表を関連付けて読み取ることができるようにする。

宇都宮市立岡本小学校第6学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【算数】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	A 数と計算	58.0	62.6	63.1
	B 図形	54.6	57.5	57.9
	C 測定	70.2	74.1	74.8
	C 変化と関係	71.6	75.8	75.9
	D データの活用	78.7	77.1	76.0
観点	知識・技能	73.0	74.1	74.1
	思考・判断・表現	62.3	65.6	65.1
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
A 数と計算	平均正答率は、全国平均と比べてやや低い。 ○除法の結果について、日常生活の場面に即して判断することは、概ねよくできている。 ●わり算の文章問題で立式する際、わる数とわられる数を逆にしている児童が多い。	・問題文の内容を整理し、聞かれていることを読み取る活動を多く取り入れ、正しく立式することができる活動を多く取り入れる。
B 図形	平均正答率は、全国平均と比べてやや低い。 ●図形を構成する要素に着目し、面積の求め方と答えを記述することに課題が見られる。	・今後も具体物の操作や実際の作図等、体験的な学習を積極的に取り入れる活動を継続的に取り入れる授業の充実を図ることで、理解の定着に努める。
C 測定	平均正答率は、全国平均と比べてやや低い。 ○条件に合う時刻を求めることは、よくできている。 ●答えを導き出すことができるが、その過程を説明することが苦手な児童が多い。	・答えを導き出すだけではなく、その過程を説明する活動を多く取り入れる。これに関しては、算数の時間のみならず、他教科の活動においても書く・説明する活動を意識的に多く取り入れる必要がある。
C 変化と関係	平均正答率は、全国平均と比べてやや低い。 ●道のり・時間・速さの関係をきちんと理解していない児童が多い。	・具体的な事例の活用や数直線による図式化などを通して、改めて道のり・時間・速さの関係についての理解の定着を図る。
D データの活用	平均正答率は、全国平均と比べてやや高い。 ○棒グラフから数量や項目間の関係を読み取ることが、よくできている。 ●帯グラフのデーターを比較し、特徴や割合について記述することに課題が見られる。	・答えを導き出すだけではなく、その過程を説明する活動を多く取り入れる。これに関しては、算数の時間のみならず、他教科の活動においても書く・説明する活動を意識的に多く取り入れる必要がある。

宇都宮市立岡本小学校 第6学年 児童質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「自分には、よいところがあると思いますか」との問いに対する肯定的回答の割合は85.1%で、全国平均よりも8.2ポイント高い。また、「難しいことでも、失敗を恐れずに挑戦していますか」との問いに対する肯定的回答の割合は85.1%で、全国平均よりも14.2ポイント高い。今後も、教員全体で児童を褒め、認め、勇気づける指導をするとともに、児童会活動や学級活動を通して様々なことに挑戦する機会を設けることで自己肯定感を育てていく。

○「朝食を毎日食べていますか」との問いに対する肯定的回答の割合は97.9%であった。また、「毎日、同じくらいの時刻に起きていますか」との問いに対する肯定的回答の割合は97.9%で、全国平均よりも7.5ポイント高かった。生活習慣が身についている児童が多かった。今後も家庭と連携し、望ましい生活が送れるよう指導支援していく。

○「学校に行くのは楽しいと思いますか」との質問に対する肯定的回答の割合は93.6%で、全国平均よりも10.2ポイント高い。また、新型コロナウイルスの感染拡大で多くの学校で休校していた期間中、勉強について不安を感じたと答えた児童は70.2%で、全国平均よりも15ポイント高い。今後も学校が児童にとって安心・安全に過ごせる場所であるように指導・支援を行うとともに、コロナ禍においても学習機会が保証できるように、一人一台端末を活用した学習支援が実施できるように準備を整えていく。

○「5年生までに受けた授業で、コンピュータなどのICT機器をどの程度使用しましたか」との問いに対する肯定的回答の割合は57.4%で、全国平均よりも17.3ポイント高い。また「5年生までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」との質問に対する肯定的回答の割合は89.4%で、全国平均よりも11.2ポイント高い。さらに「国語の授業では、目的に応じて、自分の考えとそれを支える理由との関係が分かるように書いたり表現を工夫して書いたりしていますか」との問いに対する肯定的回答の割合は89.4%で、全国平均よりも17.8ポイント高い。ICTを用いたり、自分の考えを表現する活動を積極的に取り入れたりしたことで、学習への自信・意欲が高まっている。今後もICTを用いた主体的・対話的な学習を実施し、国語で培った表現力を他の科目にも発展させられるよう指導していく。

宇都宮市立岡本小学校（第6学年） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
児童が自分の学びに気づき、主体的に課題解決に向かう工夫	各教科で宇都宮モデルである「はっきり」「じっくり」「すっきり」を意識した授業展開を行い、課題は何か、何をどのように学んだのかに気付けるようにする。 また、児童の興味関心を高める導入を工夫し、課題解決の見通しを持って学習の取り組むことができる工夫をする。	「5年生までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」との質問に対する肯定的回答の割合は89.4%で、全国平均よりも11.2ポイント高い。 「5年生までに受けた授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめたり、自分の思いや考えをもとに新しいものを作ったりする活動を行っていましたか」との質問に対する肯定的回答の割合は、83%で、全国平均より、15.8ポイント高い。
自信をもって学びに向かう児童の育成	自分の考えを言語化して交流することができるよう、学習形態を工夫したり、ICT機器を効果的に活用したりする。 また、授業の最後に、本時の授業におけるまとめや振り返りをしっかりと行う。	「5年生までに受けた授業で、コンピュータなどのICT機器をどの程度使用しましたか」との質問に対する肯定的回答の割合は57.4%で、全国平均よりも17.3ポイント高い。 「5年生までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していましたか」との質問に対する肯定的回答の割合は、76.6%で全国平均より13.1ポイント高い。 国語科の「目的や意図に応じて、理由を明確にししながら、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する」問題に対する平均正答率は、59.6%で全国平均よりやや高い。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
教科に関する調査から、各教科に関する共通する課題として、思考・判断・表現を問われ、記述式で答える問題の無回答率が、全国や県の無回答率より高い場合が多く見られる。また、「要約する」、「必要な情報を見つける」、「求め方や理由を記述する」、「考察する」など、思考・判断・表現を問われる正答率が全国平均より低い傾向がある。	各学年、各教科で言葉の特徴やきまり、教科の重要語句に重点を置いた指導を行い、読む力を育てる。既習の語句を繰り返して取り上げ、自分の考えを書いたり、説明したりするなどの言語活動を、教科横断的に取り入れる。	どの教科においても、国語辞典や漢字辞典、ICT機器などを活用し、語彙の意味を理解しながら読み、語彙の量を増やすとともに、重要語句使った文章を書く活動を取り入れ、語彙の使い方を理解し語彙の質を高める。 また、質問紙の回答を分析すると、学びに向かう意欲は高いと考えられるので、授業内容に関連する「パワーアップシート」や「復習教材」「過去問題」を適宜取り入れ、既習事項を活用して解く様々な問題に取り組む機会を意識して設ける。